



住宅リフォーム推進協議会会長賞

講評： 夫人の母が独り住まいしていた家を三世代6人で暮らせるよう、全面的に増改築したものの。主な要望は、6人で住めるようにしたい、明るくしたい、キッチンは見えないほうがよい、書斎が欲しい、カーポートは夫人の姉妹が来る時のため2台分とっておきたい、というものであった。当初の100㎡の家は同居するには手狭なので、増築することとなった。築10年なので老朽化はしておらず、母の建てた家を建て直すのもったいない、しかし、新築の気分にはなりたいたい、ということで、全面改修となった。

壁をあけてみると、造り付け家具用の柱の欠き込みが激しかったので、関係するところはすべてはがして、構造家とともにチェックした上で、構造補強を施している。

この家の特徴は、何と言っても[アウトールーム]である。以前は玄関へのアプローチ部分であった所にガルバリウム鋼板で囲った壁を立て、外部ではあるが室内的な雰囲気を持つ半戸外的な緩衝空間を生みだし、これが、外観的には町並みに寄与し、防火的にも役立ち、内部空間の延長としてもうまく働いている。内部に対しては、道路の近さを忘れさせ、静けさと光を導入し、外からの視線を遮って、防犯的にも安心できるリビングを生みだしている。また、天井までの大きな引戸は玄関とリビングの一体感の創出に大きく働いている。この「アウトールーム」という概念と手法は新しいボキャブラリーを生み出したものである。この手法は、汎用性があり、今後、広く用いられるものと考えられる。

子供室は、三人の姉妹がまだ幼いこともあって寝室は一つ、勉強コーナーも一室であるが、将来的にそれぞれ独立したベッド、机を取れるよう計画されている。

玄関の飾り棚、和室の夜間照明、台所の両面棚、子供室のガラス、素材色を出した木部の拭取り仕上げ、リビングからダイニングへの家具配置と高低差の計画、バルコニー鉄部の扱いなど細部にいろいろな工夫がある。

設計に当たっては内部模型などを用いて施主に十分な説明がなされており、工事が始まる時点では、施主は十分に空間的な理解が出来ていた。また、その提案力の高さは施主も十分に評価している。母堂も含めて施主の満足度は極めて高い。

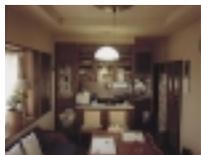
応募者がエントリーした総合・エクステリア・居室の三部門で候補作品になり、全体としてバランスがとれ、また、細部に至るまでよく工夫され、デザイン的にも優れており、設計も施工もレベルが高い。



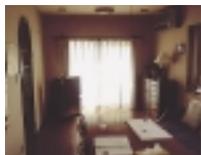
リフォーム前後の写真



① 既存外観



② 既存ダイニング



③ 既存リビング



⑥ 勉強コーナー・子供室。(左は子供達の机)



④ 外観



⑤ 門扉からアウタールーム・玄関越しに坪庭を見る。



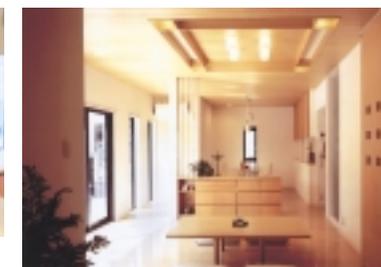
⑦ ダイニングよりリビングとアウタールームを見る。
(照明は既存折上げ天井を利用)



⑧ リビングと連続する玄関とアウタールーム



⑨ 廊下



⑩ リビング・ダイニング

リフォームの動機 / 設計・施工の工夫点 / 施主の感想 など

- ・夫人の母が一人居まいだった家を、三世代6人で暮らすため増築した。
- ・増築部分の外壁をグレーの金属板とし、二色対比のモダンな外観に一新した。
- ・道路側の増築部分の1階に室内的な雰囲気のエントランスがあり「アウタールーム」と名付けた。引戸を開け放つことで、リビング・玄関・アウタールームが一体化し、のびやかな空間となる。
- ・3人姉妹の部屋は勉強コーナーと隣接、引戸を開ければ一

- 体化する。勉強と遊びのけじめは付けながらも室内に回遊動線が生まれ、楽しい雰囲気になる。子供の成長に合わせて、可動クロゼットを移動して間仕切とする。
- ・暗かった中廊下には、リビングから光を入れ、家全体の印象を明るく見せている。

特に配慮した住宅性能など：耐震補強 省エネルギー バリアフリー 住む人の健康 その他()

データ

所在地	東京都品川区	構造 / 築後年数	在来木造 / 13年
該当工事面積	143.7 m ²	該当部分工事費	2,400万円
居住者構成	6人 (大人 15歳以上 3人 子供 3人) ベット		
設計者	(有) シーズ・アーキスタジオ建築設計室	担当者	白崎 泰弘・白崎 治代
施工者	(株) 渡辺富工務店	担当者	太田 昭・水野 敬之

リフォーム前



リフォーム後

